

導入事例紹介 | 大川運輸株式会社様



大川運輸株式会社

ご利用製品

点呼+（ロボット版・デスクトップ版）

大川運輸株式会社

茨城県鹿嶋市宮中4625-3 6拠点 600名 1,000台

執行役員 本社営業所 所長 酒井 和明様

一般貨物自動車運送事業

活用している点呼制度

業務前

業務後

活用方法

遠隔点呼



自動点呼

本社の24時間体制を活用し
他拠点の遠隔点呼を執行。

導入ステップ

ステップ 1

2拠点でロボット点
呼を先行導入

ステップ 2

全社にロボットに
よる業務後
自動点呼を導入

ステップ 3

遠隔×業務後
自動点呼の活用

導入背景

- × 約500名ドライバー、900～1,000回／日の点呼業務を対面で行っており管理者の大きな負担だった
- × 6拠点での早朝・夜間点呼に必要な人件費が重い負担だった
- × 本社が24時間体制である中、点呼業務における最適運用の必要性を感じていた

💡 現場とテクノロジーを、人の力でつなぐ。大川運輸のサステナブルDX

運用上の工夫

✓ 24時間体制の有効活用による最適運用

- 本社に常駐している管理者が、各営業所の遠隔点呼をまとめて執行することで**運用を最適化**
- バラバラだった**点呼の質を平準化**できた

✓ 社内教育を通じてシステム定着を実現

- 自社オリジナルの**マニュアルや使い方動画を作成し**展開することで、ドライバー全員が使えるよう支援



導入効果

- ✓ 本社**24時間体制を有効活用**できた
- ✓ 各営業所で**夜間・早朝の経費削減**を実現
- ✓ システムの中で点呼が完結するため、それ以外の**コミュニケーションが増加**した

取材班コメント



大川運輸様は「技術導入 × 現場配慮 × 継続的改善」を実践する、持続可能なDXの好例です。特にDXを担う“人”の重要性を示した点は、運送業界全体のヒントになると感じました。